

血液、骨、関節、肌、臓器などをよみがえらせる 「幹細胞」は体の中で足りない細胞を補い、 細胞を修復する細胞の生みの親です。

老化現象とは、体を構成する細胞が失われていくということ

最近、肌にハリがなし…

白髪が増えた…

ヒザが痛くて歩けなし…

疲れやすい…

物忘れが多い…

血糖値が高くなった…



そんなことはありませんか。主な原因は加齢によるものです。なぜこのような老化現象が発生してしまうのでしょうか。それは、若さと元気を支えてきた細胞が日々失われていくことに加え、機能が低下した細胞を修復する能力が低下する老化現象が起こるからです。20代の頃に約60兆個あった細胞が38兆個になった時、人は寿命を迎えるという説もあります。これまでは、この老化現象を止めることはできないと考えられていました。失われた細胞を補い、機能が低下した細胞を修復する細胞の生みの親ともいえる体内の「幹細胞」の数や働きも、加齢に伴い低下してしまうからです。しかし、近年の研究により「幹細胞」を増やし、働きを高めることへの可能性が広がり、老化の歩みを遅らせ、若返りを図ることが現実味を帯びてきました。

体内の「幹細胞」を増やし、活性化する特許成分「活性麹」とは

理想は、もともと体内にある自分自身の「幹細胞」を体内で増やし、体内で働きを高めること。その理想を実現した成分が、いま最先端の医学研究機関でも注目を集めている「活性麹(麹菌発酵大豆培養物)」です。「活性麹」は大豆を麹菌で発酵させて作られた成分ですが、味噌とは発酵の過程が異なり(特許製法)、味噌にはない特殊な機能を備えています。

「活性麹」特有の麹多糖には、「幹細胞」を増殖、活性化させる他、免疫のバランスを整え、抗アレルギー作用や整腸作用があることも認められています。

老化は仕方ないことと諦めてしまう前に、「活性麹」による「幹細胞」対策を始めてみませんか。若々しさも元氣も「幹細胞」から生まれます。

再生医療の切り札として期待される「幹細胞」

注目の再生医療も、「幹細胞」によって新たな展望が開けました。培養技術によって人工的に作られた多能性幹細胞(iPS細胞やES細胞)を移植することで、失った臓器や機能が低下した臓器を丸ごと新しい臓器に変えられる可能性が出てきました。難病のパーキンソン病、多発性硬化症、また脳梗塞、心筋梗塞、網膜疾患、糖尿病などで臨床研究が進められていますが、実用化するには技術性や安全性の

面でまだまだたくさんの課題が残されています。

近年では、自身の「幹細胞」を体外に取り出し、体外で安全に増やし、再び体内に戻す治療(幹細胞移植術)が行われるようになりました。しかし、「幹細胞」が必要な働きをどれほどするか分からない、評価が困難である、感染症などの危険がある、治療費が高額である、などの課題が残されています。

私たちの体の細胞は、「幹細胞」によって修復・再生されています。

幹細胞って何?

老化により失った細胞を補うため、新たな細胞を生み出してくれる幹細胞。全身の細胞を修復してくれる体の中のお医者さんでもあります。

	肌	腎臓	骨・軟骨	脳	幹細胞の状態
健康で若々しい	 表皮幹細胞 肌の生まれ変わりが活発な肌	 健康な腎臓 (健康な細胞で満たされている)	 正常な膝の軟骨 (すり減っても再生する)	 正常な脳	多い 健康な細胞を数多く生み出すことができる
老化	 表皮幹細胞 内部がスカスカの肌 (細胞が少なく張りが無い) シワ・たるみ	 腎機能低下 (生きた細胞が少ない状態) 慢性腎臓病、腎炎、腎不全	 老化ですり減った膝の軟骨 変形性膝関節症、骨頭壊死、骨粗しょう症	 空洞化している脳 認知症、パーキンソン病	少ない 細胞を生み出すことができず、臓器の機能は低下

※イメージ図



アドバイザー 佐野 正行 医師
医師、産業医、セカンドオピニオン専門医
ナチュラルクリニック代々木
サンフィールドクリニック

幹細胞による先進医療の第一人者。
幹細胞の効果を予防医学にも取り入れているドクターです。